

●発表日: 令和6年(2024年)6月26日

## 田原市博物館テーマ展「開業 100 年渥美線展」を開催します

豊橋鉄道渥美線は、新豊橋駅と三河田原駅を結ぶ 18.0km の単線電化の鉄道で、今年で開業 100 年を迎えました。

渥美線は、地元の人たちの願いや、当時田原や豊橋にあった軍事施設へのアクセス、それに電気の活用や観光需要の増進など、さまざまな期待のもと建設されました。

その後現在まで、移り変わっていく地域の需要に応えながら、電車は地域と共に走り続けました。この渥美線 100 年の歴史を、写真と貴重な資料から振り返ります。

また、90 年前に計画された半島の先端まで建設するはずだった「まぼろしの渥美線」の過去と現在を取り上げます。観覧者に地域の鉄道の新たな一面を発見する機会にしていいただければ幸いです。ぜひ、取材をお願いします。

- 1 開催期間 7月27日(土)～9月29日(日)
- 2 会場 田原市博物館 企画展示室1、2
- 3 観覧料 大人 310円(240円)、小中学生 150円(120円)

※1 ( ) 内は20人以上の団体料金

※2 東三河在住・在学の小中学生は、ほの国こどもパスポートの提示で観覧料無料

※3 渥美線1日フリー乗車券を提示で団体料金適用&豊鉄記念品を窓口でプレゼント  
(切符利用当日のみ有効、記念品は無くなり次第終了)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(9月16日(月・祝)、9月23日(月・祝))は開館  
9月17日(火)、9月24日(火)

### 【関連イベント】

#### (1) 渥美線沿線めぐり

渥美線一日フリー乗車券を片手に、電車を乗り降りしながら沿線の見どころを巡ります。(例)国鉄と貨物のやり取りをしていた花田信号所、電車の保守・修理を行っている高師車両区ほか、渥美線の昔をたどることができる場所など

・日 時 9月22日(日) 午前10時～午後5時ごろ

※午前10時に新豊橋駅に集合

・定員 20人 ※渥美線一日フリー乗車券の購入が必要

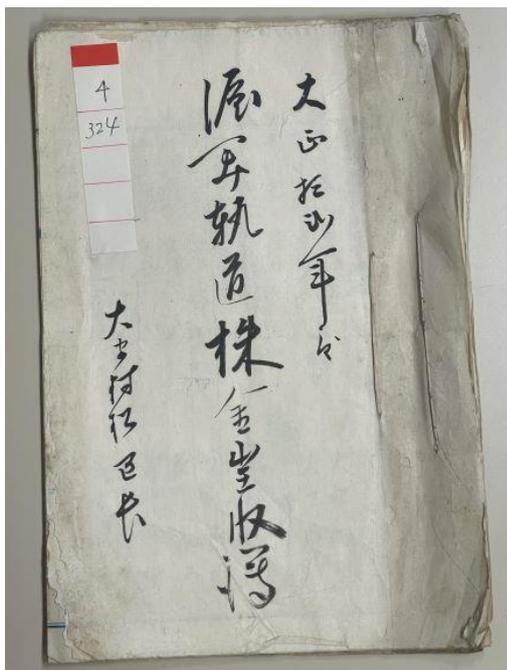
#### (2) ギャラリートーク(要観覧料、申込不要)

・日時 8月10日(土)・9月1日(日)

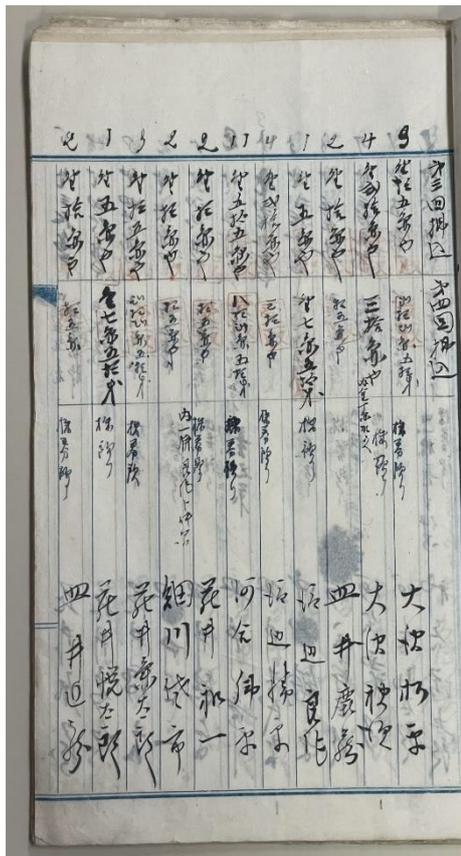
各日午後1時30分～(一般向け)、午後3時～(鉄道が好きな方向け)

・場所 田原市博物館

<以下、展示する写真や資料を少しだけ紹介>



渥美軌道株金徴収簿 大字村松区長  
1923 (大正 12) 年



渥美線の会社設立のための資金は、  
渥美半島に住む人たちに世帯ごとに割り振られました。  
まさに地元の人たちで作った鉄道でした。



日中戦争に出征する兵隊を送る女性  
たち

1937 (昭和 12) 年ごろ  
三河田原駅 鈴木政一氏撮影

鉄道の歴史はその時代の歴史を浮  
き彫りにもします。



渥美線といえば、昭和40年代から平成初めにかけてはクリームに赤帯の電車を思い出す方も多いでしょう。当時はあちこちの鉄道会社のお古が走っていることも特徴でした。

田原の子どもたちには、この電車に乗って豊橋に行くのが楽しみでした。

1979（昭和54）年

柳生橋・小池間

元写真は豊橋鉄道蔵



行先表示板(個人蔵)



電車に取り付ける急行マーク(個人蔵)

渥美線に急行があった時期がありました。



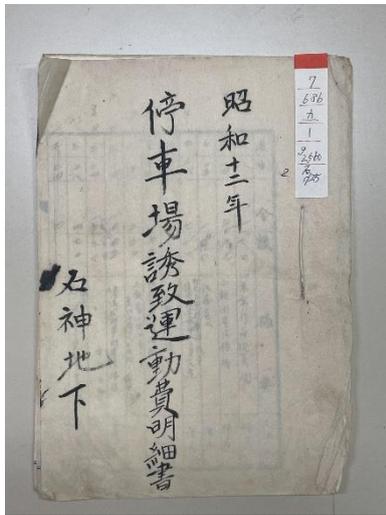
石油を運ぶ貨物列車 1977(昭和52)年 杉山・やぐま台間  
列車の後ろに見える稲わらのはざかけ風景が時代を感じます。

元写真は名古屋レール・アーカイブス蔵



水田の中にポツンと残る鉄道橋  
野田町・彦田橋梁

渥美半島の先端に続くはずだった90年前の渥美線建設の遺構は、現在でもあちこちに残っています。



停車場誘致運動費明細書 石神地下  
1937（昭和12）年

渥美線建設ルート上にありながら、駅が作られないことになった石神の住民により誘致運動が繰り広げられました。



老津駅にあった鉄道手荷物・小荷物窓口  
元写真は豊橋鉄道蔵



鉄道小荷物切符

1976（昭和51）年ごろ 個人蔵  
渥美特産のメロンが渥美線三河田原駅から東北本線仙台駅まではるばる鉄道で運ばれたことがわかります。